

Lampedusa: L'Europe assassine

<http://www.migreurop.org/article2283.html?lang=fr>

ランペドゥーサ——人殺しをするヨーロッパ

2013年10月4日

ランペドゥーサ島のすぐそばで起きた新たな海難事故では、リビア発の船に乗り込んでいた 500 人のうち、少なくとも 300 人が死亡、もしくは行方不明となったが、それは不可避のできごとではなかった。2010年には同じ場所で、2隻の船が同時に難破し、400人近い犠牲者を出した。2009年には、シチリア島沖で 200 人が溺死した。難民高等弁務官事務所は、2011 年の上半期だけで、マルタ島かイタリアに辿りつこうとして亡くなったボート・ピープルの数を 1500 人と推計している。1990 年代半ばから、ヨーロッパは移民に対して宣戦布告し、地中海で少なくとも 2 万人を殺してきたのである。

これは戦争なのか？非正規移民取り締まりの名のもと、貧困と迫害によって自国を追放されたかれら・彼女らを押し戻すべく、国境警備強化のための数々の装置が設けられてきた。これらに、ほかにどのような名づけが可能だというのか？この体制を進めてきたのはフロンテクス (Frontex) である。フロンテクス＝欧州国境機構は 2005 年から船、ヘリコプター、飛行機、レーダー、赤外線カメラ、そして近い将来には無人機を、ジブラルタル海峡からギリシャの島々まで展開し、ヨーロッパを「望ましくない者たち」から守ろうとしてきた。あるいはまた、ユーロシュール (Eurosur) と呼ばれる共同監視システムが、2011 年以来、EU の域外国境を軍事化するために先端テクノロジーを用いて、域外からの非正規移民の数を抑制しようとしている。ヨーロッパはまた、移民の中継国——リビア、アルジェリア、チュニジア、モロッコ——に見張り番の役割を求め、一斉検挙、逮捕、虐待、監禁によって移民の北進を抑止するよう、協力関係を押しつけている。このような事態を、ほかのいかなる名で呼べばいいのか？

これまでのものに比べても驚くほど規模が大きかった、ランペドゥーサの新たな難破事故を受けて、事故に責任を負う者たちは例のごとく、儀礼的に涙を流してみせた。イタリアは国家としての弔意を示したが、この国の統治者は、右、左を問わず、亡命者を送り返すことができるように、カダフィやベン・アリの独裁政権を含め、近隣諸国政府と出入国管理協定を結び続けてきた。そして、この日、内務担当の欧州委員も声明を発表し、海上の難民船をよりよく監視することができるとして、ユーロシュールの早期実施を求めた。偽善は留まるところを知らないのか？地中海ほど、監視と観測の網の目が行き届いた海域はほかにないのだ。もし、海洋法が規定するように、救命が優先されていたのなら、リビア-ランペドゥーサ間にこれだけ多くの難破が起きうるだろうか？

すでに、こうしたできごとの主要な責任を負う者として、密入国業者、マフィア、人身取引業者が指

弾されている。あたかも、国境をなんとしても越えなければならない一部の移民の切迫したニーズを利用して儲けようとする悪質な商売が、移民を阻止しようとする政策によって可能となり、促進されていないかのように。内戦から逃れようとするシリア人が命の危険を顧みず、地中海を渡ろうとするのは、かれ・彼女らがヨーロッパで合法的に庇護申請をするのに必要なビザの発行を、EU 加盟国が拒んでいるからだということを思い起こしてほしい。

聞くとところによれば、沈没する船をみた漁師たちは、乗船者たちを助けずに航路を進んだという。そしてこれらの漁師を、命の危険にある者を見殺しにしたかどで訴追し、罰するべきとの声があがっているという。人びとは、忘れてしまったのだろうか？2007年に7人のチュニジア人の漁師が「外国人のイタリアへの不法上陸を幫助した」かどでイタリア司法に訴追され、刑務所に入れられ、船を押収されたということを。それもこれも、沈みつつある船にいる移民に救助の手をさしのべ、自分たちの船に引き揚げて、ランペドゥーサまで送り届けたからという理由で。

否、ランペドゥーサの悲劇は不可避の運命がもたらしたできごとではない。強欲な密入国業者や無関心な漁師のせいでもない。ランペドゥーサで亡くなった人びとは、過去、そして将来においても、自らが守ると掲げた諸価値を放棄し、治安強化の論理のなかに閉じこもって、そのほかのことが見えなくなっているヨーロッパの犠牲者なのだ。それは、人殺しをするヨーロッパだ。

署名者：

移民支援、ならびに人権擁護団体の責任者

オリヴィエ・クロシャール(ミグルーロップ=Migreurop 代表)

ステファンヌ・モジャンドル(移民のための情報と支援グループ=Gisti 会長、フランス)

アブデルハマンヌ・ヘドヒリ(経済的・社会的権利のためのチュニジア・フォーラム会長、チュニジア)

フィリッポ・ミラグリア(移民、庇護権、反レイシズム運動代表、イタリア)

メフディ・アリオウア(外国人、ならびに移民擁護と支援のための反レイシズム・グループ代表、モロッコ)

カリム・ラヒッジ(人権連盟国際連合会長、Boats4People 連合)

ミシェル・トゥビアナ(ヨーロッパ=地中海人権ネットワーク会長)

(仮訳:伊藤るり)